

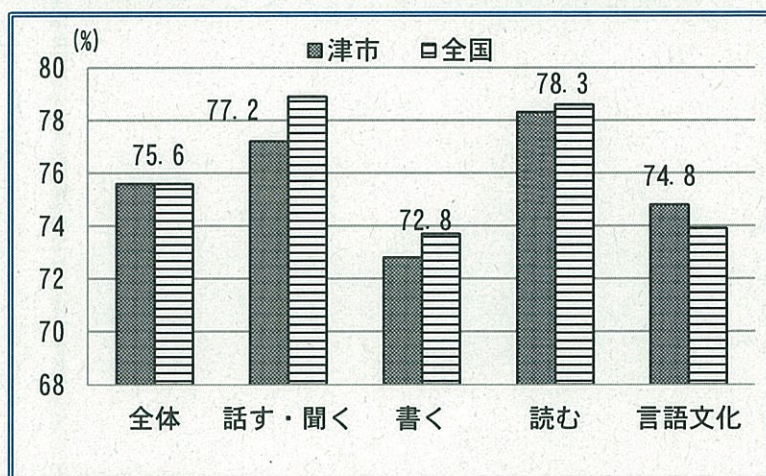
●中学校国語 A「主として知識に関する問題」の調査結果

国語Aの平均正答率について

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)			全国との差
			津市	三重県	全国	
全体		33	75.6	74.4	75.6	0.0
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6	77.2	77.2	78.9	▲ 1.7
	書くこと	4	72.8	72.6	73.7	▲ 0.9
	読むこと	6	78.3	77.5	78.6	▲ 0.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	74.8	72.7	73.9	0.9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度					
	話す・聞く能力	6	77.2	77.2	78.9	▲ 1.7
	書く能力	4	72.8	72.6	73.7	▲ 0.9
	読む能力	6	78.3	77.5	78.6	▲ 0.3
	言語についての知識・理解・技能	17	74.8	72.7	73.9	0.9
問題形式	選択式	23	73.0	72.3	73.5	▲ 0.5
	短答式	10	81.6	79.3	80.5	1.1
	記述式					

領域ごとの調査結果については、平均正答率の高い順に「読むこと」が78.3%、「話すこと・聞くこと」が77.2%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が74.8%、「書くこと」は72.8%の正答率でした。

全国の平均正答率と比較すると、特に「話すこと・聞くこと」において低い状況が見られます。



話すこと・聞くこと 問題 1 5 7

聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する問題では、80.7%の正答率でした。

また、伝えたいことを明確にするために付け加える言葉として適切なものを選択する問題の正答率は89.3%でした。

話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意したり、全体と部分との関係に注意したりして話を構成することを理解していると考えられます。

一方、相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は66.4%、話し合いを踏まえた発言として適切なものを選択する問題では56.9%の正答率でした。話の展開に注意して聞き、自分の考えと比較したり、互いの発言を検討したりして自分の考えを広げることに課題があります。

書くこと 問題

2

4

日本の武道である「弓道」について調べたことを紹介するためのパンフレットを作成する問題は76.6%の正答率でした。伝えたい事柄を相手に効果的に書いたり、集めた材料を整理して文章を構成したりすることは、ほぼ理解できています。

一方、答えの文章を直した意図として適切なものを選ぶ問題は63.9%の正答率でした。文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くことに課題があります。書いた文章を読み返す際には、自分の伝えたい事柄が明確になっているかどうかについて、読み手の立場に立って確認することが大切です。

読むこと 問題

3

6

8

随筆に係る問題においては、文脈の中における語句の意味を理解したり、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解したりすることについての正答率は、全国の平均正答率と比較すると、ほぼ横並びです。

説明的な文章に係る問題においては、展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題の正答率は81.0%、文章の構成や展開について自分の考えをもつという問題の正答率は、66.1%でした。説明的な文章を読む際には、書かれている内容を理解するだけでなく、文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉えることに課題があります。

また、奥付について説明する問題の正答率は87.1%となっており、奥付の特徴や役割については、ほぼ理解できています。しかしながら、資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は61.0%でした。実際に奥付を使って本についての情報を得ることに課題があります。情報源となる本の内容が自分の目的に合っているかどうかを確かめて活用することに留意する必要があります。

伝統的な言語文化や国語の特質に関する事項 問題 9

漢字の読み書きでは、「読み」が93.8%、「書き」が69.0%の正答率でした。特に「独創」という漢字を書く問題では、正答率が29.4%と低くなっており、漢字の特徴を理解して適切に使えるようにすることに課題があります。（「独」は小学校5年生、「創」は小学校6年生の配当漢字）

また、題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する問題は34.8%の正答率で、文字の形や大きさ、配列に注意して書くことに課題があります。

語句についての理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、文脈の中での意味を捉えたり、使い分けたりするように指導する必要があります。

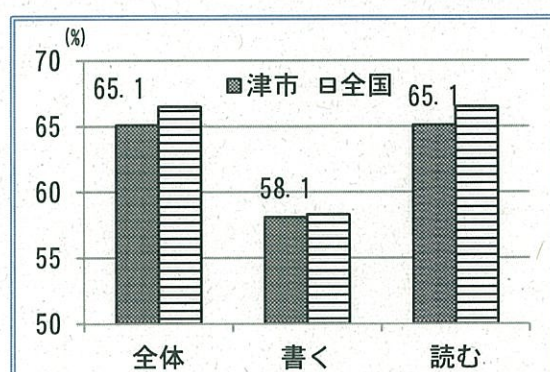
●中学校国語 B「主として活用に関する問題」の調査結果

国語Bの平均正答率について

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)			
			津市	三重県	全国	全国との差
	全体	9	65.1	64.3	66.5	▲ 1.4
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと					
	書くこと	3	58.1	55.6	58.3	▲ 0.2
	読むこと	9	65.1	64.3	66.5	▲ 1.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項					
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	58.1	55.6	58.3	▲ 0.2
	話す・聞く能力					
	書く能力	3	58.1	55.6	58.3	▲ 0.2
	読む能力	9	65.1	64.3	66.5	▲ 1.4
	言語についての知識・理解・技能					
問題形式	選択式	5	68.3	68.5	70.6	▲ 2.3
	短答式	1	70.3	69.2	71.1	▲ 0.8
	記述式	3	58.1	55.6	58.3	▲ 0.2

領域ごとの調査結果については、平均正答率の高い順に「読むこと」が65.1%、「書くこと」が58.1%でした。

大問ごとの調査結果については、「情報を読む」が73.1%、「説明的な文章を読む」は57.5%、「情報を関連させて物語を読む」は64.7%の正答率でした。



情報を読む 問題 1

【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】から分かる「暮らしの中の伝統文化」が開かれるねらいとして適切なものを選ぶ問題は73.3%の正答率でした。

また、ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く問題の正答率は65.9%でした。文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題があります。様々な文章を自分の目的に沿って活用したり、自分で文章を書く際に表現の工夫について考えたりすることが大切です。

説明的な文章を読む 問題 2

雑誌の記事の説明として適切なものを選ぶ問題の正答率は61.4%で、文章の構成を捉えて内容を理解することに課題があります。特に、項目が立てられた文章では、見出しに着目して読むことで、大まかな内容が把握できることに気づくように指導することが大切です。

また、情報カードにまとめる内容として適切なものを選ぶ問題の正答率は60.5%で、目的に応じて情報を整理し、要約することに課題があります。内容のまとまりを捉えるとともに、中心的な部分と付加的な部分を読み分け、内容を正確に理解することが大切です。

宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く問題の正答率は50.6%でした。

新たな疑問や課題の有無について吟味したり、課題を解決するために目的に応じて適切な情報を収集したりする等、自ら課題を決め、その課題を解決するための方法を考えることに課題があります。

情報を関連させて物語を読む 問題 3

物語の展開に沿って巳之助の様子を並び替える問題の正答率は70.3%でした。

物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることとして適切なものを選択する問題の正答率は66.1%でした。

また、図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く問題の正答率は57.7%で、無回答率が21.1%となっていることから、本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があります。

情報の収集に当たっては、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などの活用を図ることが大切です。

【課題となっている問題】

国語B2 説明的な文章を読む (宇宙エレベーター)

宇宙エレベーターのイメージ

大規模な建設もOK

宇宙エレベーターのイメージ

宇宙エレベーターのイメージ

宇宙エレベーターのイメージ

もう夢物語ではない！
エレベーターで宇宙へ

ケーブルで地上と宇宙を結ぶ。そのケーブルは、地球の重力と宇宙エレベーターの浮力によって、常に一定の張力がかかっている。地上では、ケーブルは地球の重力によって引っ張られる。宇宙では、ケーブルは宇宙エレベーターの浮力によって引っ張られる。このように、ケーブルは常に一定の張力がかかっている。このため、ケーブルは常に一定の長さで保たれる。このため、ケーブルは常に一定の長さで保たれる。このため、ケーブルは常に一定の長さで保たれる。

新しい物質の発見

新しい物質の発見

新しい物質の発見

新しい物質の発見

【課題となっている問題】

石油ランプ

石油ランプ

石油ランプ

石油ランプ

部品の主な明かりの差違

行灯 (江戸時代)

油を入れた皿に芯を渡し、火をつけて使う。

石油ランプ (明治時代中期から現在)

行灯より明るい。部屋全体を照らすほどではない。

白熱電球 (明治時代中期から現在)

明かりが揺れたり消えたりせず、部屋全体を照らす。

蛍光灯 (昭和から現在)

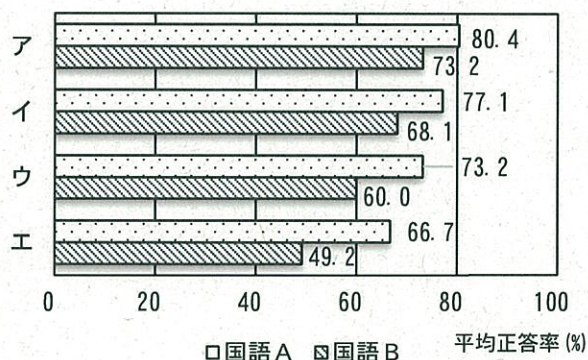
白熱電球より明るい。消費電力が少なく長持ちする。

●中学校国語 「生徒質問紙」から見える国語の学習について

国語の授業に関して「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」と回答した生徒は20.1%で、国語の問題の正答率は、小学校と同様に国語A(80.4%)、B(73.2%)ともに高くなっています。

その他、「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えている生徒の方が、小学校と同様に正答率が高い傾向があります。

【68】自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている



- ア 当てはまる (20.1%)
- イ どちらかといえば当てはまる (42.9%)
- ウ どちらかといえば当てはまらない (28.4%)
- エ 当てはまらない (8.3%)

●中学校国語 学習指導改善のポイント

主に知識に関する調査結果から

➤互いの発言を検討して自分の考えを広げる

学級等で一つのことを決定するために話し合いを行う際には、相手の立場や考えを尊重し、場面に応じて的確に話したり聞いたりすることが大切です。その際、話題になっている物事について別の立場や視点から考えることを通して、自分の考えを広げることができるように指導する必要があります。

また、話し合いを行うことで、自分の考えが広がり、説得力のある新たな発言につなげることができるなど、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うことができるよう指導することが必要です。

➤文の成分の照応についての指導の工夫

主語と述語の照応や修飾語と被修飾語の照応などについては、各領域の学習の中で適宜取り上げることが大切です。文の成分の照応について確認したり、語順を変えることで伝えたい事柄がどのように変わるのかを具体的な事例等を提示したりするなどの工夫が必要です。

(例) とても日本人が建設に大きく貢献していることを知って驚きました。

→ 日本人が建設に大きく貢献していることを知ってとても驚きました。

主に活用に関する調査結果から

➤文章の構成や展開、表現の仕方について考える

「博物館のちらし」の表と裏の表現の工夫と、その効果について具体的に書くなどの条件を満たした解答が求められています。文章の構成や展開、表現の仕方について考えることは、様々な文章を自分の目的に沿って活用することや、自分で文章を書く際に表現の工夫について考えることにもつながります。

例えば、ちらしやポスター、パンフレットなどの構成や展開、表現の仕方について、書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりする学習活動が効果的です。日常生活の中で具体的なちらしやポスター等を使って考える機会を持つことで、自分自身の表現の工夫につなげていきます。

➤自ら課題を決め、解決するための方法を考える

文章を読んで、ものの見方や考え方を広げるためには、書かれている内容を正しく理解するとともに、新たな疑問や課題の有無について考えることが大切です。例えば、互いの感想を交流して疑問点を出し合い、新たな課題を設定する学習活動が考えられます。

また、課題を解決するためには、目的に応じて適切な情報を収集する必要がある。情報の収集に当たっては、新聞や雑誌、コンピューターや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段の活用を図ることが大切です。

また、学校図書館を利用する際には、目的に照らして必要な本や資料を探すことができるように発達段階に応じた指導が必要です。

(本や資料を探す際の留意点)

- ・テーマやジャンルなどに注目する
- ・書名や著者に注目する
- ・目次、索引、奥付、まえがき、あとがきなどを参考にする など

➤解釈したことについて、根拠を明確にして説明する

文学的な文章を読む際に、必要に応じて百科事典や図鑑などの資料を参考にすることで、読みが深まったり、そこから具体的にイメージした場面の様子などについて交流したりすることが考えられます。

その際、文章のどの部分に着目し、どのような事柄を基にして内容を理解したり、想像を広げたりしたのかなど、その根拠を明確にして説明し合うように指導することが大切です。